環境が体格運動能力に及ぼす影響について

東京学芸大学

○中林 久二, 宮畑虎彦, 長谷川常次郎

大野 武治, 関 四郎, 横井 真雄

羽島 好夫

研究の目的

附属小学校児童(第4学年)に対し, 入学時より毎年体格や運動能力について, 同一内容を同一方法によつて調査し, 昨年は「運動能力の発達に関する累積的研究」として第3学年までの結果を本学会に発表したのであるが, 本年はこれらの資料をもとにして, 環境が, 体格や運動能力にどのような影響を及ぼしているかを明らかにすることを目的として調査した。

研究の資料

1. 父母に対し, 質問紙法による次の事項について調査した。家庭における戸外の遊び場所, 偏食, 罹病傾向, 父母のスポーツに対する関心, 父母の運動部, 選手の経験, 児童が生れた時の父母の年令, 父母の現在の身長, 体重, 父母の身長伸びが止まったと思われる年令。
2. 児童の運動能力は 50m 走, 走幅とび, 立幅跳, ボール投(大・小)球つき, キック, 懸垂, 垂直跳, 連続片足跳の 10 種目について実施した。
3. 父母に対する調査は, 質問紙法により昭和 37 年 9 月に実施した。運動能力は毎年 10 月に, 身長, 体重については, 入学時より毎月測定している。
4. 児童の運動能力を上中下の 3 段階に分けたが, その方法は前記 10 種目のうち代表的と思われる 50m 走, 立幅跳, ボール投(小)連続片足跳, 懸垂持久の 5 種目をとりあげ, それぞれの種目を平均を中心に 1.2 シグマに含まれる者を中, それ以上の者を上, それ以下の者を下とした。そして 5 種目のうち, 上が 3 種目以上ある者を運動能力上とし, 下が 3 種目以上ある者を下とし, 他を中とした。

対 象

東京学芸大学附属小金井小学校第 4 学年 85 名。

研究の方法と結果の考察

1. 家庭における戸外の遊び場所と運動能力との関係
父母に対して, 子供の家庭における遊び場所が十分にあるか, 普通か, ほとんどないかについて調べ, それと

児童の運動能力との関係を明らかにしたのが上の表である。

この結果では, 女子において, 広い遊び場所を持つている者は, 運動能力もややすぐれていること, 運動能力の上の者は, 男女とも狭い遊び場所を持っていないことが言える。

2. 父母のスポーツに対する関心と運動能力との関係
父母のスポーツに対する関心を調べる方法として, 現在自分でスポーツを行うことが多いか, 普通か, 少いかについて質問し, その結果を児童(男女別)の運動能力の 3 段階に分けてその比率を出した。なお, スポーツを見たり聞いたりすることについても同じ要領で比率を出した。この結果から両者の関係を調べてみたが, 特別な関係は認められなかった。

3. 父母の運動部や選手の経験と運動能力との関係
このことについても, 前記の要領で整理した。この結果から, 母については, 関係のあることが認められた。

4. 偏食と運動能力との関係
偏食の有無と運動能力との関係については, 特別の影響は認められなかった。

5. 罹病傾向と運動能力との関係
児童の病気にかかりやすいか, 病気にしないかと運動能力との関係は, 運動能力のある児童は, 病気をしない者がやや多いことが認められた。

6. 児童と父母との身長の関係
これについては, 父親母親とも関係があるが, 特に母の方に深い関係が認められた。

7. 児童の身長と父母の成熟の速さとの関係
父母の身長伸びの止つた年令により, 児童の身長との関係を調べたのであるが, 特別な関係は認められなかった。この問題については, 学年を追つて継続して調査することによつて, 何らかの傾向がつかめるのではないかと思う。